

堂谷津の里から

堂谷津の里では、実りの秋を迎え、順調に生育した稲の刈り取り・脱穀を行い、無事、収穫を終えることができました。是非、堂谷津のお米をご賞味下さい、11月3日には収穫祭を予定しています。皆さんと一緒に自然からの恵みに感謝し、来年の豊作を願いたいと思います。前回、井戸の完成を報告しましたが、今回は井戸掘りに携わった安齋朗氏に詳しく報告して頂きました。この井戸は、手押しポンプを漕ぐと地下から水が出る体験を通して、堂谷津の地層、地下水の動き、湧水、その水源林など、堂谷津の水環境について理解する契機になることを願って設置しました。

【田んぼでは】



豊かに実ったうるち米
(いのちの壺)



親子米づくり体験とちばフィールド探究クラブによる稲刈り



コンバインによる刈り取り、その後、乾燥・粳摺り



会員によるもち米（ヒメノモチ）の稲刈り・おだ掛け



会員から借用したハーベスターによる脱穀。



親子米づくり体験による足踏み脱穀機を用いた脱穀

寄稿

井戸掘りの報告

元千葉県立松戸南高等学校 科学研究部顧問 安齋朗

この度は井戸を掘らせていただくという貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。まずは、このような機会を頂いたことを深く感謝いたします。延べ6日間の作業は、毎回雨に降られて思うように作業が進まず、苦労の連続でした。しかし、高校生たちにとって、誰かの役に立つことをするという事は、本当に貴重で得難い体験です。苦労したからこそ、

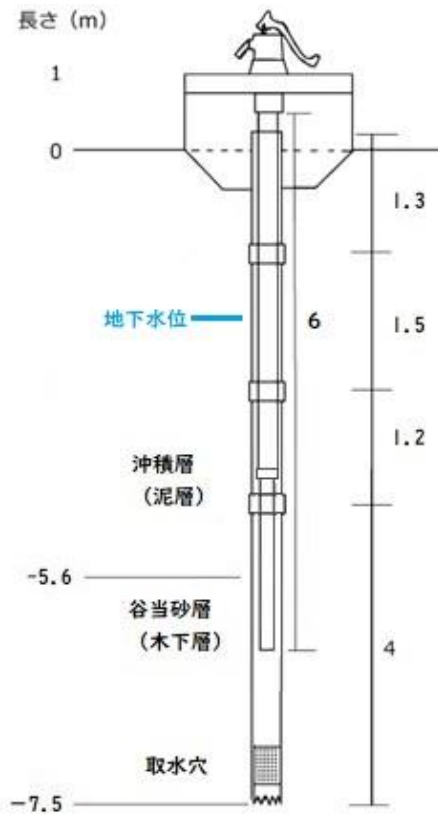
自らの力で井戸を掘り上げるという活動を通じて自分への自信を持つことができ、また、皆さんのお役に立て、喜んでいただけたことで、もっと社会に出て役立ちたいという向上心を持つことができました。今回井戸掘りに関わった生徒はそれぞれ、千葉工業大学、東京情報大学、環境保全の専門学校への進学をすることになりました。

さて、今回作成した井戸ですが、おおよそ右図のような形になっています。千葉県環境研究センター地質環境研究室の風岡様から頂いた資料を基に掘る深さを決定しました。外側の井戸枠には内径 100 mm の塩ビパイプを用いて、下部 30cm~90cm の部分に直径 1.5mm の取水穴を 15mm 間隔で開け、およそ 60cm の幅から地下水を井戸枠内に導入できるようにしてあります。谷当砂層の地下水位はおおよそ 2 m なので、取水穴から入ってきた水は水圧によっておよそ取水穴から 5.5m ほど押し上げられて溜まります。

この井戸枠内に溜まった水をくみ上げるパイプについては内径 40mm のパイプを 4 m、その先にさらに内径 30mm のパイプを 2 m 足して、深さ 6 m のところから水を汲み上げるようにしてあります。取水穴付近の地層は砂の層のため、しばらく汲み上げた水には細かい砂が混じり濁りがあると思います。また、まだ地下水の通り道もしっかりと作られていないので、しばらくガチャポン（井戸ポンプ）を漕いでいると水を汲み切ってしまう、空漕ぎの音がしてしまう状態ですが、井戸を使い続けているうちに濁ることも減り、水量も次第に増えていくと考えられます。それから、地下 7 m のあたりの温度は年間を通じて 10℃~15℃程度と思われ、汲み上げた水は夏は冷たく、冬は少し温かく感じられるのではないのでしょうか。積極的に井戸水を利用していただき、谷当の谷津を潤す地下水に思いを巡らせていただけたら幸いです



井戸の掘削中の高校生



15mm 間隔で取水穴を開ける作業

<情報コーナー>

12月3日(土)は、里山開放日です。焚火体験など予定。詳しくはホームページでご確認下さい。

NPO 法人バランス 21

E-mail :yatosatoyama@gmail.com

URL :https://balance21.jimdo.com/

連絡先：千葉市若葉区谷当町 70

TEL & FAX:043-239-0645 (現地)